あぐり情報

営農生活課
中村 好仁

エダマメのカメムシ防除

今回はエダマメのカメムシ防除について紹介していきます。

エダマメに集まるカメムシは、「アオクサカメムシ」、「イチモンジカメムシ」、「ブチヒゲカメムシ」、「ホソヘリカメムシ」などの4種類です。

「アオクサカメムシ」の成虫は体長14～16㎜のあざやかな緑色、幼虫は丸くて黒色でのちに鮮緑色の斑紋や、腹部背面に赤色点を現わします。

「イチモンジカメムシ」は体長9～11㎜の黄緑色で、前胸背に雄は紅色、雌は白色の横帯がある。

「ブチヒゲカメムシ」は体長7～8㎜で、光沢のある暗褐色で細い毛が生えています。

「ホソヘリカメムシ」は体長9～11㎜で、暗い黄褐色で、前胸背の側角は斜状にとがっています。

○カメムシの被害

被害は針を刺して莢の中の豆を吸汁し、その跡が小さな褐色になります。幼虫、成虫ともに食害をします。見た目の被害が気付きにくいため放置しておくと被害が拡大する恐れがあります。カメムシには天敵となる生き物があまりおらず、防除しないでそのまま放っておくと産卵をして数が増えて群生してしまいます。

○カメムシの生態

カメムシは1年中発生する虫ですが春に越冬した成虫が初夏に産卵するため、梅雨明けから夏後半にかけて多く発生します。夏に成虫になったものは越冬して翌年の春に再び圃場に現れます。カメムシはあらゆる植物に寄生するため、自分の圃場だけを防除しても周辺の雑草地から飛来します。

○カメムシの対策方法

カメムシの被害を防ぐためには、カメムシを見つけたら処分する。卵は葉の裏に産み付けるので見つけ次第処分する。圃場周辺の雑草を除去してカメムシを寄せ付けない。圃場周辺の落ち葉など越冬場所を作らないようにする。葉が過繁茂状態になるとカメムシが見つけにくくなり住処となるので、不要な枝葉は摘葉して風通しを良くして日光がよく当たるようにしましょう。

アオクサカメムシ

ブチヒゲカメムシ

ホソヘリカメムシ

イチモンジカメムシ

○カメムシの薬剤防除

カメムシを薬剤防除する場合には、次のポイントが挙げられます。

カメムシの飛来は開花期直前ごろから始まります。生息数は畑の周辺部に多い傾向があるので、畑の周辺部を見て回り、飛来の有無を確かめます。

防除適期は莢伸長終期～種実肥大中期です。適正防除回数および防除時期は次のようにカメムシの発生量によって異なります。

・1回防除で十分な場合、防除適期は種実肥大初期になります。

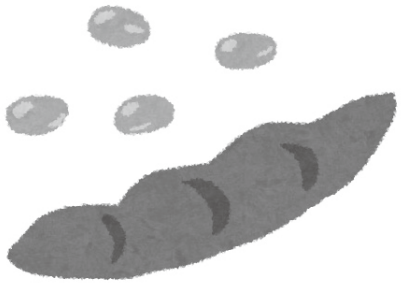
・2回防除が必要な場合の第1回防除適期は種実肥大初期になります。第2回防除適期は種実肥大中期です。第1回防除日の約10日後をめやすとしましょう。

・3回以上の防除が必要な場合は莢伸長終期、種実肥大初期、種実肥大中期、種実肥大終期の防除を7～10日間隔で行いましょう。

飛来が多い時期はカメムシの羽化時期や周辺における寄生植物の生育期などによって若干異なるので、生育密度調査を行って、密度の移り変わり状態を把握して、防除時期を決定しましょう。

防除効果は防除面積が広いほど高まる傾向があります。エダマメ畑を集団化し、全域を一斉防除するように計画しましょう。反対に狭い面積の圃場では防除効果があがりにくいので、防除回数を多くする必要があります。

カメムシの生息部位は主として莢上であるので、薬剤は莢やその周辺部によく付着するように散布しましょう。



カメムシ類の登録のある主な農薬			
	希釈倍数使用量 散布液量	使用時期	使用回数
スタークル 顆粒水溶剤	2000倍 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	2回以内
ダントツ水溶剤	2000～4000倍 100～300リットル/10a	収穫3日前まで	3回以内
トレボン乳剤	1000倍 100～300リットル/10a	収穫14日前まで	2回以内
マラソン乳剤	1000倍 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内

蠍座　10/24～11/22

【全体運】大逆転運。ピンチになったときがチャンスです。敵と味方がはっきりするのは良い傾向。詳しい説明が開運の鍵
【健康運】前半は無理をしないで。後半は快調です
【幸運の食べ物】ビワ